

令和 6 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、北日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、旬間日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。北日本日本海側の旬間日照時間平年比は 148% となり、1961 年の統計開始以降、4 月上旬として 1 位の多照となった。また、北日本日本海側の旬降水量は少なかった。一方、東日本以西では本州南岸付近に停滞した前線や低気圧の影響を受けやすく、3 日頃と 9 日頃は大雨となった所もあり、9 日頃は東日本で荒れた天気となったため、旬降水量は東日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で多く、旬間日照時間は東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

中旬は、期間を通して暖かい空気に覆われやすく、暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、旬平均気温は全国的にかなり高かった。北日本の旬平均気温平年差は +4.3℃ で、1946 年の統計開始以降、4 月中旬として 1 位の高温となった。北・東・西日本では天気は数日の周期で変化した。低気圧などの影響を受けにくかったため、旬降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本日本海側と東・西日本太平洋側で少なかった。また、東日本を中心に高気圧に覆われやすかったため、旬間日照時間は東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響で 13 日から 15 日にかけて大雨となった所があり、15 日頃を中心に 4 月として記録的な大雨となった所もあったため旬降水量はかなり多かったが、高気圧に覆われて晴れた日もあったため旬間日照時間は多かった。

下旬は、期間を通して暖かい空気に覆われやすく、暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、旬平均気温は全国的にかなり高くなり、下旬の後半を中心に多くの地点で、4 月として日最高気温の高い方からの歴代 1 位の記録を更新した。旬平均気温平年差は沖縄・奄美で +3.0℃ となり、1946 年の統計開始以降、4 月下旬として 1 位の高温となった。全国的に天気は数日の周期で変化した。西日本と沖縄・奄美を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすかったため、旬降水量は西日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美で多かったほか、旬間日照時間は東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、低気圧の影響を受けにくかったため、旬降水量は東日本日本海側で少なかった。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 88% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 85% でした。地方別の適中率では、明日予報は、東海地方、四国地方、九州北部地方、九州南部地方で例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値と同じか例年値を上回りました。また、明後日予報は、関東甲信地方、九州北部地方、九州南部地方で例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値と同じか例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃ 小さい 1.5℃ で、全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。また、

最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4℃小さい 1.1℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の天気予報の利用にあたって】

平年では、6月の中旬ごろには全国的に梅雨入りとなります。梅雨の時期は、他の季節に比べて大雨が発生しやすく、山崩れ、地滑り等の土砂災害、河川の増水や氾濫、低い土地の浸水などの災害をもたらすことがあります。大雨が予想される場合には、最新の気象情報や早期注意情報、大雨・洪水の注意報、警報の発表状況にも留意してください。